

# 留 学 報 告 書

令和 6 年 1 月 24 日

学 部 総合理工学部 学科・課程 物理・マテリアル工学科

氏 名 森本 千晴

1. 留学先大学・学部 国名 アメリカ合衆国

大学名 ケント州立大学

現地到着日 ( 2023 年 8 月 14 日)

授業開始日 ( 2023 年 8 月 21 日)

現地出発日 ( 2023 年 12 月 21 日)

授業終了日 ( 2023 年 12 月 17 日)

2. 日本を出発するまでの主な手続き及び準備

大学寮の手配、航空券の購入、履修手続き、大学から送られてくる「やることリスト」を完了する、大学寮と教科書の代金や大学のアカウント使用料などの支払い、ビザ申請、空港についてからの送迎の手配、洋服や身の回り品など留学に必要なものの調達、スーツケースの重さチェック、大学から指定された予防接種とその証明書の入手等。

3. 自宅から留学先大学までの交通手段（乗物の種類、乗り換え地、所要時間）

飛行機で大阪から東京、東京からロサンゼルス、ロサンゼルスからクリーブランドホプキンス空港へ渡米した。所要時間は飛行機の乗り換え時間を含めて20時間。空港に着いたら予約していた大学の送迎タクシーの集合場所に行き学校まで送ってもらう(約50分)。

4. 留学先大学での各種手続きの仕方

大学に到着後、部屋に入るためのFLASH CARD というカードキーが必要になる。カードキーは学生証でもある。その時はtri towerという大学寮の一階に仮のカードキーを渡してくれる場所まで取りに行く。荷

物を部屋に置いた後に学生センターの地下一階にFLASH CARDを取りに行く。その際自分の写真を前もって大学に提出していればそのままもらえるが、写真を提出していなかった場合は写真をその場で撮ってもらう。大学の図書館や学食の場所などあたりを散策しながら今後の生活に必要なものを考える。私はドライヤーや布団のシーツ、まくらなどを近くのWalmartで購入した。その後は授業が始まるまで学校の設備や教室の行き方など確認を行った。

#### 5. 留学生へのオリエンテーションの内容及びプレースメントテストについて

学校の大ホールにて留学生が集められ、円形のテーブルに座った。そこには様々な国出身の学生が出席していた。私のテーブルには現地で友達になった韓国人と中国人の子たちとナイアガラ出身の男の子たちが座った。自己紹介やニックネーム、自国のことなど会話をして楽しんだ。しばらくしてステージにてオリエンテーションに関わった方々の挨拶とこれからの我々留学生の生活についての話があった。その中でちょっとしたゲームが行われた。もしもの時の警察の呼び方や学内のアルバイトの探し方、教科書の販売所や1セメスターあたり最大何単位とれるのかなど、留学生に役立つ情報をクイズ形式で出題していた。

#### 6. 授業の受け方、ペーパー及び試験の傾向等について

基本教科書はデジタル化されているのでパソコンを使う。私は紙のノートを使ったが多くの学生がパソコンを使ってgoogle sheetsでノートをとっていた。授業の受け方は日本と基本変わらない。先生が教壇に立ちパワーポイントを使って授業を進めていた。試験はそれぞれの課目によって異なる。オンラインでの受講であったり対面で行われたりした。選択問題形式で出される傾向にあるが、時々自分の考えや意見が問われる問題にて書き込む必要があった。

授業はパワーポイントが使われるが試験でそのままパワーポイントの内容が使われるとは限らない。授業の内容に沿った教科書の内容も目を通しておく必要がある。教授は生徒が教科書も平行して読んでいると想定しているので、授業で習わなかった内容がテストに出てくることもあるため注意が必要。

#### 7. 留学先大学で学んだ科目のうち特に良かったもの、後輩に勧めたいもの

私がとった科目では地球科学や考古学の授業が面白かった。特にテストでいい点数を取ると一気にモチ

ベーション向上につながった。先生の話も聞いて面白かったし学びがあった。アメリカ特有のジョークも息をするように授業中に挟んでいた。一番いいのは自分が好きな科目、興味のある科目をえらぶことだと感じる。日本での専攻科目に関係なく本当に学びたいと思う教科を履修すると満足する。

8. 留学先大学の住居の種類等について、後輩にどのような寮・アパートを勧めるか

私が住んでいたtri-towerはいい施設であった。屋内にジムもコンビニも学食もあるため、広いキャンパスを回らなくともそこで生活が成り立つ。住むのならtri-towerをお勧めしたい。ある大学寮Korb Hall 1では各階に洗濯機と乾燥機が1台ずつしかなく回転が悪いため注意が必要。詳しくは大学ホームページまたは大学寮案内に送られてくるメールから情報を得ること。図書館やSTUDENT CENTERなどなるべく大学の中心に近いところを選ぶ。

9. 寮・アパート生活での注意、生活の様子（行事など）、困ったこと、ルームメイトとの付き合い方、（いつから入れるのか、寮の開閉、寮が閉鎖中の滞在場所等）

大学寮の入居可能期間は大学側から連絡が来る。そのため必ずその情報に従って飛行機の手配や準備を行う。大学寮の入退出にはFLASH CARD という学生証が必ず必要なので肌身離さず持つておく。もし部屋を出るときにカードを忘れた場合は一階の事務員にその旨を伝えて入室させてもらう。もし深夜など人のいない時間にカードキーを忘れてしまったらとにかく誰でもいいので周りの学生や職員に助けを求める。ちなみにそんな学生のためにスマホアプリでカードキーの代わりとなるものが使えるが、私の場合はなぜだかアプリが使えなかった。冬休みや夏休み期間は寮が封鎖される。そのときは友達の家泊まらせてもらうか一時帰国をする。

私はルームメイトが入居してすぐに出て行ってしまったため一人で過ごしていた。そのためほかの学生との同居でトラブルはなかった。生活で困ったことはとくにはない。

10. 留学先での金銭の扱い及び貴重品の管理について

（どのような口座を利用したか、現金とかカードの利用は、自宅からの送金はどうしたか等）

時々どちらかのカードが利用制限されている可能性があるため、クレジットカードを必ず2枚異なるものを持って行くようにする。口座はアメリカのバンクアカウントを作っておく。学校からの払い戻しがあるか

もしれないので注意すること。現金はアメリカのバンクアカウントがなくても持ってきたクレジットカードから現地で直接引き下ろせるため最初は2万円程度の換金で事足りる。南京錠を持参すると盗難対策にも良い。

11. キャンパス案内 (どんなとき, どこへ行けばよいか等)

困った時はまずスクールアドバイザーにメールをおくる。緊急の場合はstudent centerに直接要件を言う。警察への連絡はケント州立大学のホームページに記載されているので留意しておく。病気などはヘルスケアセンターに連絡する。授業のことはCanvas Studentという授業の教科書やパワーポイント、提出物が掲載されるアプリがあるのでそこで連絡する。

12. 現地案内 (買物, 銀行, レストラン, 理髪店, 美容院等の様子)

日用品は近くのWalmartやAcmeにてことを済ませる。大学内にもコンビニはあるので大きな買い物出ない場合はそこを利用する。レストランや理髪店、美容院は近くにダウンタウンがあるのでそこで利用可能。銀行はWalmartやstudent centerにある。基本食事に関してはミールプランを利用することになるので3食事学食である。私の友達は交換留学生にもかかわらずフライパンや調味料を買って自分で調理していたが、学生は忙しいのでこういった事例は稀である。

13. 失敗談 (どんな小さなことでも)

FLASH CARDをたまに部屋に忘れて再度戻れなくなった。授業の欠席は病気であれば書類を保健所からもらって担当教員に渡しておく必要がある。場合によっては欠席の数により授業の評価が下がる。飛行機はなるべく早めに予約をしておく必要があるが、早すぎるとせっかくできた友達と旅行に行く予定が合わないの  
であまり急がないほうがいい。1ヶ月前でも飛行機の料金はあまり変動しない。

14. 病気になった場合の対応について (医療費はどのようになっていたか, 保険等はどのようにしたか)

病気になったことはない。私の友達は奥歯に親知らずが生えてきたらしく保健所に相談していたが、抜歯を現地でするのは怖かったらしく帰国まで待っているようであった。海外保険は国際課から案内が必ずあるので入っておくこと。

15. お世話になった方々

現地でどう過ごすのかは自分次第である。よってスクールアドバイザーには自分で問題を説明して相談する必要があり、ここが間違っているやなにか期限が迫っているなどは教えてくれないことが多い。自分で大学からのメールを随時チェックしておくことが重要である。友達にはなんでもいいので不安に思うことを相談する。教師にも分からないこと、相談したいことがあればアポイントメントをとること。

16. 留学先国内旅行について（場所、手段、費用、旅行社等）

ロサンゼルス：飛行機trip.comでの予約で往復137ドル

ニューヨーク：飛行機ユナイテッド航空にて往復150ドル

ワシントン：飛行機アメリカン航空にて片道75ドル

ラスベガス：飛行機フロンティア航空にて162ドル

ナイアガラ滝：友達の車で謝礼金20ドル

17. 気候と服装について

オハイオ州は自然豊かな場所で、夏は日本の気温より低く23度-26度。この季節は動物たちも活発になり毎日リスを見かけた。鹿もたまに見かけた。冬はとても寒く平均気温は-5度。ロングコートはもちろん手袋やマフラー、暖かいインナーを身に着けた。雪が降ると学生も教授も授業に行きたくなくなるので一部の授業はオンラインになったことがある。

18. 日本からぜひ持っていきたいもの（学用品、衣服、食品、薬、運転免許証等）

ノート、南京錠、手袋、繰り返し使えるカイロ、パソコン、折りたたみ傘、頭痛や腹痛、風邪薬などはもちろん筆記用具は最低限持って行ったほうがいい。海外で運転したいときは国際免許証を発行するために日本の運転免許証が必要になるので適宜対応。インスタント食品（ラーメンやごはん、味噌汁）は好きなものを持っていくとよい。個人的には荷物がかさばらない手頃な味噌汁がお勧め。

19. 留学に際し最も役立った本は（専門書、旅行案内書を含めて）

---

本は基本もっていかななくてよい。インターネットで調べられる情報なら持っていく必要はない。学校で分からない単語や文法が出てきたらパソコンを使うのが一般的。

20. ホームステイの依頼方法

交換留学生は基本大学寮に住むことになるため大学からそのお知らせがくる。どこの寮に配属されるかは抽選で決まるためはじめに希望調査が行われる。早くに申し込みを行ったほうが希望にそった大学寮に入れる可能性が高い。

21. 留学費用について

1) 旅費	(往復)	<u>395,000</u>	円
2) 準備費用		<u>35,000</u>	円
3) 大学へ納入する費用		<u>1,200,000</u>	円
授業料（年間合計）		<u>免除</u>	
保険等その他の費用		<u>29,000</u>	円
4) 住居費（光熱費等含む）		<u>390,000</u>	円
5) 衣服代，その他雑費		<u>3,000</u>	円
6) 帰国時の土産代，郵送料等		<u>5,000</u>	円
7) 留学先国内旅行費用		<u>300,000</u>	円
8) 上記を含めその他すべてを含めた合計金額		<u>1,935,500</u>	円
現地通貨 <u>ドル</u>	日本円換算(レート)	<u>150</u>	円

22. 帰国時の荷物の作り方，送り方等

---

下着など持って帰らなくても困らないもの、帰国後に日本で揃えられるものはなるべく捨てておき、お土産や衣類や思い出の品をなるべくスーツケースにできるだけ入れる。帰国の際に重量オーバーにならないように注意すること。現地でスーツケースを新たに買うのも手だと思ふ。送るとなると金額が高いのでなるべくスーツケースで持って帰る。飛行機に乗るためにスーツケースの重量オーバーには気を付ける。

23. 留学して得たこと（全般についての感想文）

---

私はこの交換留学を通して様々なことを学んだ。例えば英語はアメリカのネイティブだけに作られたものではないということ。留学先では様々な国の人種、文化、バックグラウンドをもった学生に出会った。その中で英語は共通の言語としてみんなと繋がれる手段であり、友達の母国語を知らなくても英語でコミュニケーションが取れた。英語は国境を越えて人とつながれる素晴らしいコミュニケーション手段であった。アメリカではいい意味であまり人に関心がない。日本では見た目や話し方など人物の内面ではなく外見に焦点を当てることがしばしばある。これはアジア特有の価値観で、例えば実写版アリエルの黒人採用について、アメリカでは称賛されたが韓国などのアジア圏では、イメージと異なるとして批判が相次ぎ興行収入も勢いを振るわなかった。こうしたルッキズムないし人種差別に寛容となっているアメリカではそもそも他人を評価するうえで多様性が基盤にあるのだと思った。日本では街中で外国人を見かけると違和感があるがアメリカではそうはならなかった。日本は島国故に他国の人たちの入国がほかの国と比べてハードルが高い。それ故同じような人種しか存在しないため他者の評価が日本特有の価値観で成り立っているように感じた。よってアメリカでの暮らしは他人から見てどう思われるかなど気にしなくてもよく、思うよう行動して好きなように活動できる場所であった。この経験は現地に行かないと得られなかったと思う。留学を通して価値観の違いを知り、考え方の幅を広げることができた。

授業に関してはとにかく些細なことでも質問することがたいせつである。私は小さい頃から物怖じしない性格で、分からないことや疑問に思ったことがあればすぐに先生や友達に聞いていた。今回の留学でその個性が活きたと思っている。分からないことを明確化することで自分の理解力を上げて相談した相手に自分の考えを知ってもらえた。教授と仲良くなることで英語能力の向上に役立ち人脈づくりにつながった。

他者との交流の中で一番の思い出は親友ができたことである。彼女はカンボジア出身の現地の学生で、お姉さんがアメリカでビジネスオーナーをしているためその手伝いとアメリカの学士号をとるために渡米した。英語が堪能で服装がオシャレな学生で、いつも遊んだり図書館で一緒に勉強したりしていた。たまに深い話も出来て、これからの将来や夢などについて語った。私は彼女と留学先で会えたことに本当に感謝している。彼女は英語をどうやって学んだのか私に教えてくれ、一緒に洋画をみたり宿題をお互いに手伝ったりいろんなところで友好を深めた。私は自分の将来について悩んでおり、彼女もまた自分の進路について悩んでいた。互いに相談にのったりして不安をぬぐってくれた。本当にいい友人で今でも連絡を取り続けている。留学は自分の価値観をガラッと変えるだけでなく人生も変えてしまうほど強力なもので、留学を考えている人にはぜひ行ってもらいたい。